

「分析」のGemini vs 「起草」のClaude：知財業務におけるAIモデル使い分けガイド

2026年2月にリリースされたGemini 3.1 Proは、推論性能が倍増し、コストは競合の半分という圧倒的な進化を遂げました。しかし、知財実務においては「分析」には強い一方で「起草」には課題があり、Claude Opus 4.6等との使い分けが重要になります。

Gemini 3.1 Pro の3大進化ポイント



3段階思考システムの実装
業務の複製さに合わせ、Low/Medium/Highの推論レベルを選択可能。



ARC-AGI-2

推論・科学能力が劇的に向上
論理推論(ARC-AGI-2)が148%向上し、高度な特許分析が可能に。

知財業務別：推奨モデルの使い分け戦略

分析業務は「Gemini 3.1 Pro」

ランドスケープ分析や先行技術調査など、大量文書の処理に最適。



起草業務は「Claude Opus 4.6」

Geminiは出力が短い傾向にあり、詳細な明細書記率にはClaudeが推奨。



Claude Opus 4.6の
約半額

圧倒的なコストパフォーマンス
Claude Opus 4.6の約半額で、大量の特許文献処理に最適。

業務領域ごとの適正比較と推奨モデル

